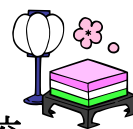


北中だより

3月号



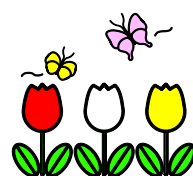
自主・自律・自己実現

茨木市立北中学校

北中学校がめざす生徒像

豊かな心もち、たくましく生きる生徒

今年度もあと少しです。朝夕の寒さがまだまだ続きますが、日中の日差しにぬくもりを感じる日も多くなりました。お正月ごろには夕方5時には暗くなっていましたが、最近では5時半を過ぎても明るく、春が近づいてきたことを実感できるようになりました。まだまだコロナウイルスの感染拡大防止の取組は継続していかなくてはなりません。三年生の多くは、公立高校特別選抜試験や私立高校の受験が終わり、3月9日の公立高校一般選抜試験に向けて頑張っています。進路の決定は人生の大きな関門のひとつと言ってもいいでしょう。それを乗り越えることで、心身ともに大きく成長し、たくましくなるのです。もちろん、過去の先輩たちもみんな経験し、このハードルを乗り越えてきました。第一希望の進路先に希望どおり進む人もいればそうでない人もいます。しかし、決まった進路先で最善を尽くすことが大切です。今回の進路決定がゴールではありません。大切なのは、今後をどう過ごすかです。それぞれの進路先で新たな目標を持ち、充実した生活を送ることを願っています。



心の壺という言葉聞いたことがありますか？

例えば、日ごろよく「笑いのツボ」とか「マッサージのツボ」、他にも「感動するツボ」など“～のツボ”という言葉を使いますね。

“ツボ”というのは、人間のからだに必要な栄養素や血液が流れる管の分岐点のことを指す医学用語が語源のようです。日本ではそれが、“ツボ(壺)”と表現されているらしいです。その“ツボ(壺)”は、心の中にもあります。心の中に壺があることを頭でイメージしてみてください。皆さんの心の壺はどんな形をしていて、どんな色で、どんな大きさですか？そして、その壺の中に自分が入ってみて、探索してみたとしたら・・・、何があって、何が見えてくるのでしょうか？

人の“心の壺”は、そんなに広大ではありません。また、そんなに頑丈なものでもありません。人が持つ“心の壺”は、意外と簡単に外からの衝撃によって傷がついたり、ヒビが入ったり、時にはほんの少しの衝撃で簡単に割れてしまうこともあるようです。あるいは、壺の中に溜まっているその人が大切にしているものが、あふれ出てしまうこともあるようです。

クラスメイト、部活仲間、家族など、周りの人の“心の壺”、大切にしていあげていますか？“心の壺”が傷ついたままでしんどい思いをせず、家族や学校の先生、友達、周囲の信頼できる人、にそのことを話してみよう。今のクラスで過ごすのも、あとすこしですね。それぞれの心のタイプを活用し、心のツボを大切に、思い出深い今年度の締めくくりにしましょう。

